

愛の貯金

校長 加納直樹

4月から2か月が経ち、高四の子供たちは、毎日元気に学校生活を過ごしています。校長の私も校内を歩き回り、それぞれの学年の子供たちの様子を肌で感じ、素敵などころをたくさん見付け、子供たちに伝えていきます。

さて、『愛の貯金』という言葉があります。ある保健福祉士の方のお話で、「子供が十歳ぐらいになるまで、周りの大人たちが、一生懸命に子供に愛情を注いでほしい」とのこと。子供のよいところを見付け、ほめて育ててほしいということなのです。おそらくここまでは、どこのご家庭でもされていることと思います。もっとも週によっては、今週はちょっと小言の多かった一週間だったと振り返られることもあるかもしれませんが…。その方のお話の中で、もっとも印象深かった言葉が『愛の貯金』です。

子供は一人一人の性格が違っていても、共通することは、ほめてもらうことでうれしいと感じ、「ぼくは、ぼくのままでいいんだ」「わたしは、わたしのよさがある」という感情、すなわち自尊感情が育っていくというのです。この自尊感情の育っている子供は、自分を大切にするだけでなく、他人も大切にすることができます。こうした子供を『愛の貯金』をたくさんもっている子というのだそうです。

子供たちは日々の生活の中でこの『愛の貯金』をつかひながら生活をしています。だから、常に貯金をしなくてはなりません。愛の貯金をたくさんもった子は、「叱られても、許してもらえる」という気持ちを持ちます。素直に育つのは、この結果だというのです。

もしも、『愛の貯金』のたくわえのない子供がいたとしたら、どうなるのでしょうか。自分の居場所や、自分の存在価値、自分のよさを見いだせないばかりか、頑張ったり、新しいことに挑戦したりしても、本来認めてもらえるはずの人からの励ましや称賛がないとすれば、子供自身から「努力しよう、頑張ろう」という気持ちは生まれてこないでしょう。自分を大切にすることから遠くなり、場合によっては、ヤケになりはしないでしょうか。

高井戸第四小学校の子供たちは大変素直で、自己肯定感や自尊感情が高く、友達と協力したり、すすんで仕事をしたり、友達を大切にできる子が多いです。それは、高四の教職員はもちろん、保護者の方をはじめ、たくさんの地域の皆様方から子供たちへ愛情を注いでいただいているおかげで、高井戸第四小学校児童の心の中にたくさんの『愛の貯金』があるからなのだと感じております。そのような素晴らしい保護者の皆様・地域の方々にご支援・ご協力をいただき高井戸第四小学校の教育活動があるということを忘れずに、

「子供たちみんなが友達や先生に会いたいと登校してくる高井戸第四小学校」

「保護者の皆様からこの学校に子供を通わせてよかったと思われる高井戸第四小学校」

「地域の方から愛され地元の誇りと感じてもらえる高井戸第四小学校」 を目指し、今後も保護者の皆様と力を合わせて、教職員一同頑張っていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。